

5年生 米作り 一田植え

5年生は総合的な学習の時間として「米作り」に一年間取り組んでいきます。4・5月の臨時休校のために、米作りについて十分な話し合いや作業をすることができずにいましたが、JAの方々にご協力をいただくことで5月26日（火）に田植えができました。



田植えの方法についてのお話を熱心に聞く姿。最後まで苗を植える姿、友だちへの温かい声かけや認め合いの姿など、さすが5年生というところがみられました。自分たちの力で育てる米作りを通して、一人一人がどんなことを感じ、学んでいくのが楽しみです。

引き渡し訓練

6月3日、非常時を想定した引き渡し訓練をおこないました。保護者の皆様には、ご都合をつけてお子様の引き取りにおいていただき誠にありがとうございました。



今回は地震想定、校庭での引き渡しとなりました。不審者、自然災害等で子どもたちを安全に帰宅させる必要がある場合を考えたとき、その時の天候等も考えると、その場に応じた形での引き渡しを実施することになります。その基本となる一連の引き渡しの流れをご理解いただくことができたかと思えます。保護者の皆様にお迎えに来ていただくような非常事態はないに越したことはありません。しかし、近年はゲリラ豪雨・雷雨が大変多くなり、川の増水氾濫や土砂崩れの恐れ等子どもたちだけでの下校が心配される状況が想定されます。急にオクレンジャーでお迎えを要請する連絡があった場合には、すぐにお迎えに来ていただくことが難しいご家庭もあるかと思えます。子どもたちがお迎えを待つ間、心配や不安になることが考えられますので、ぜひ、お子様に「もしものとき、お迎えに行くのに

〇分くらいかかるよ。」と伝えておいていただきますようお願いいたします。

東日本大震災では、お子さんを近所の方が一緒に連れて帰る途中で津波にさらわれ命を落とすという悲しい出来事もありました。したがって、有事の際のお子様の引き取りは、保護者（保護者が認めたご家族）でなければならないと考えております。保護者の方がお迎えに来られるまで、学校で責任をもってお預かりいたしますので、安全に気をつけて慌てずにお迎えにおいでください。

子どもたちの目（芽）

子どもたちの観察眼に驚かされることがある。

5月26日、火曜日の朝のことである。「校長先生、来てー。」と花の水くれに来たAくんと呼ばれた。「これアゲハの幼虫・卵だと思うんだよね。」と植木鉢に植えられたミカンの葉を指さした。近づいて見てみると、5mmほどの黒っぽい毛羽だったような物体と直径1.5mmほどのオレンジ色をした卵らしき物体が見えた。「これ多分、アゲハの幼虫。蚕が卵から生まれるときもこんな感じだったから。」私が、「どうしてそう思うの？」と問いかける前に、Aくんは、自分の考える根拠を話しはじめた。

続けて、「ここにも卵があるよ。えっと、ここにもあるよ。」と葉の表や裏、枝の付け根など違う場所にある卵を教えてくれたのである。

私は、「この間、カラスアゲハがミカンの木に飛んできていたんだ。きっとアゲハの幼虫だね。」と、13日の教務会のときに、カラスアゲハが飛んできていたことを伝えた。そして、「Aくんと先生でアゲハになるのを楽しみに観察していこうか。」と話した。

私自身、アゲハの幼虫を育てて羽化させることはあったが、アゲハ蝶の卵を見たのは初めてだった。卵と卵からかえったばかりの幼虫を見て私は新鮮な感動を覚えた。

私は、アゲハが来てから毎日葉や枝を眺めては卵を探した。しかし、見つけれなかった。Aくんは、アゲハが来たことは知らなかった。それでも、25日の月曜日には、卵を見つけていたという。

昨年、Aくんは前校長先生と一緒にこのミカンの木についてアゲハの幼虫を育てた経験があった。さらに、蚕を育て、卵からかえる幼虫を育てていたという。生き物への興味・関心が強いAくん。それは、ただ単に生き物に関する知識が豊富ということではない。実際に生き物に触れ、自ら体感してきた上で獲得してきた知識である。そこに生き物を見る目が育っている。「去年ミカンについてアゲハの卵と幼虫と一緒に」「蚕が生まれたときもこんな感じだった。」と、自分が経験をもとに獲得してきた知識を繋げて判断しているAくんであり、経験があるからこそ見えない物が見える目が育っているAくんである。これこそがその子の個性であり、成長につながる芽なのではないか。

一人一人の子どもはそれぞれ違う個性をもっている。それぞれの子どもがAくんのようにすてきな可能性の芽をもっている。その可能性の目（芽）を、子どもたちの普段の姿や仕草、言葉から見つけて、伸ばしていくことが、私たち大人の役割であると思う。

